

# SPIRAL DANCE



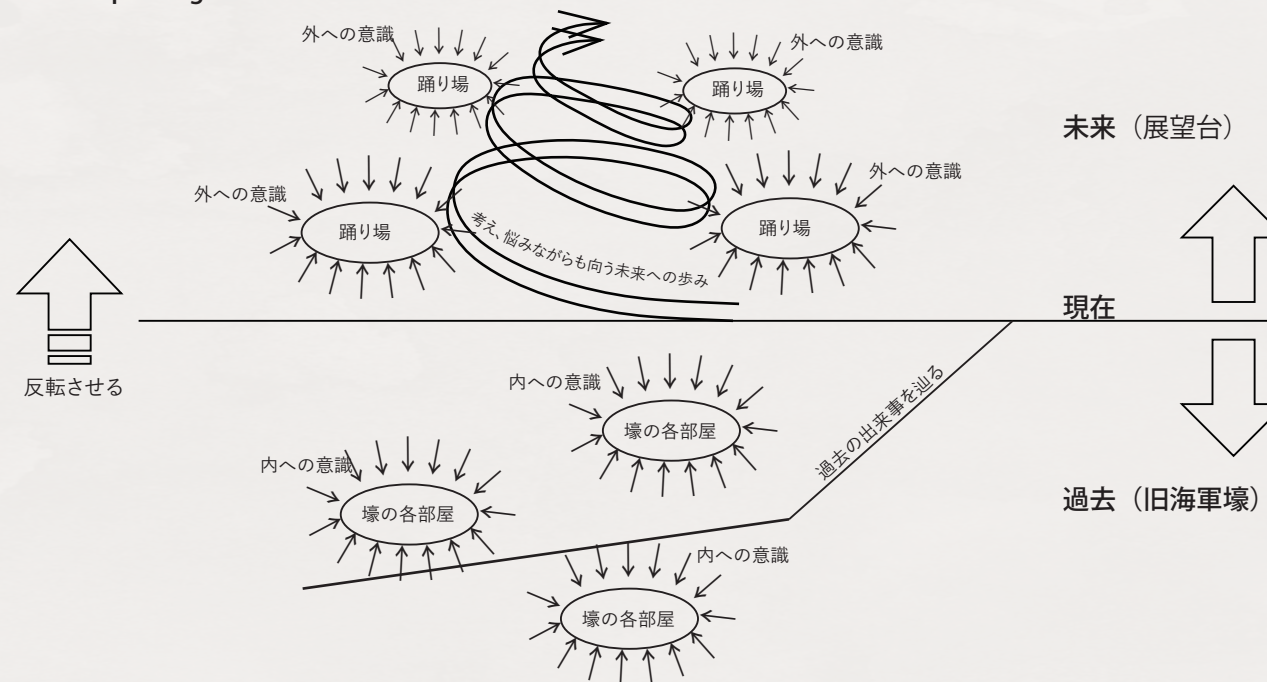
## Prologue : 「戦跡」

那覇市と豊見城市のちょうど境目に位置している旧海軍司令部壕。  
現在は生活道路として車や人が通り抜けて行く穏やかな場所ですが、かつては、  
普段の日常からは想像もできない様な光景が広がっていました。  
戦時中、恐怖や怒りの中、生き抜くために熱意を込めて掘られた「旧海軍司令部壕」。  
真っ直ぐに地中へと降りていく階段のその先の各部屋には、当時の戦いの痕が深く刻まれている。  
目を背けてはいけない過去と向き合いながら、ここに展望台を提案致します。

## Concept : 「Reverse」

旧海軍司令部壕を反転させる。  
真っ直ぐに降りていく階段は過去へと辿っていく痕跡。辿り着いた各部屋は過去の記憶。  
それらを反転させる。  
悩み曲がりながらも登っていく階段は未来への道程。その途中に設けられた踊り場は未来への展望。  
悲惨な過去だったからこそ、その分、未来は希望で満ち溢れてほしい。  
亡くなった悲しみが深い分、生まれる喜びが増えてほしい。  
反転させることで、苦しんだ暗い過去の分、幸せな明るい未来になる様にと想いを込めた。

## Concept image



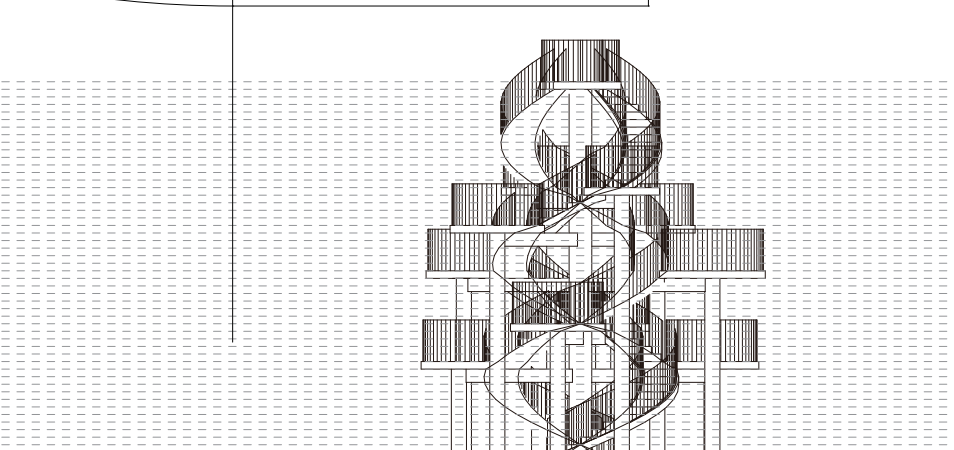
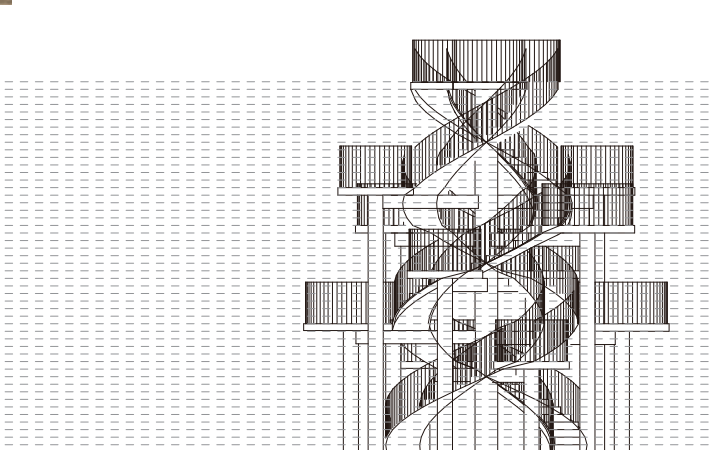
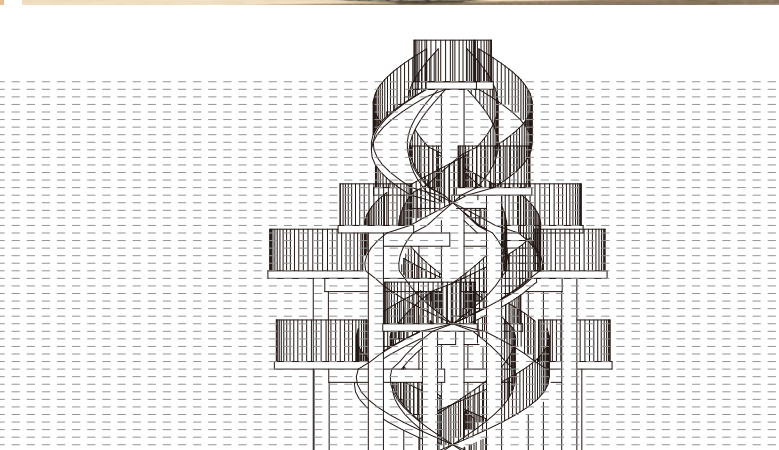
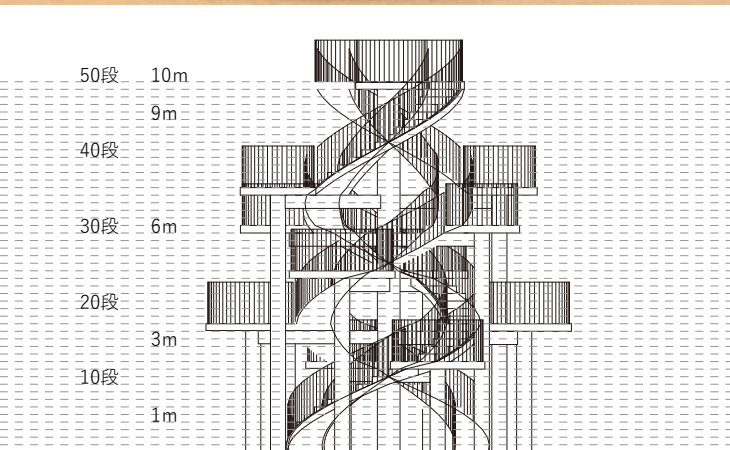
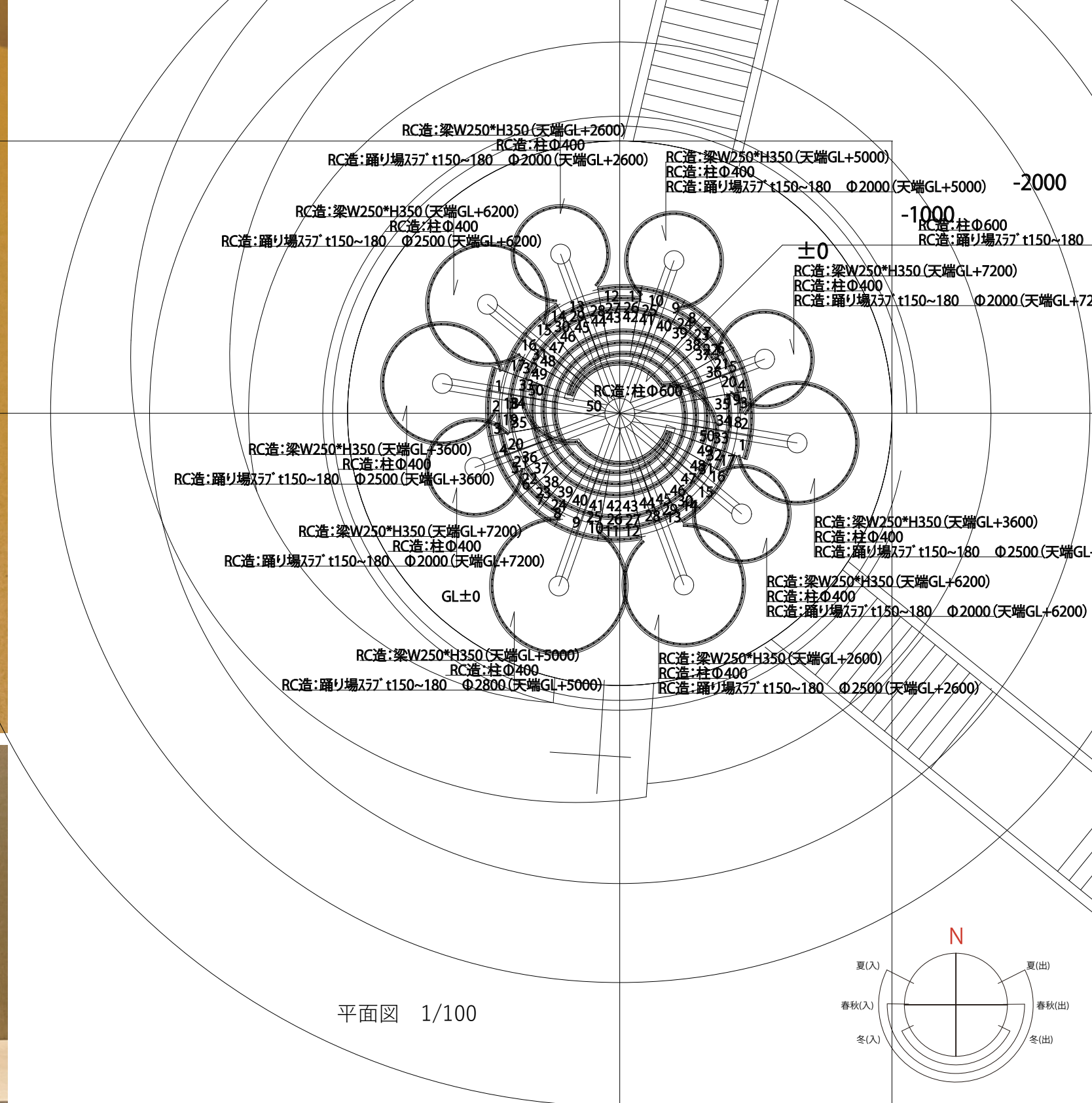
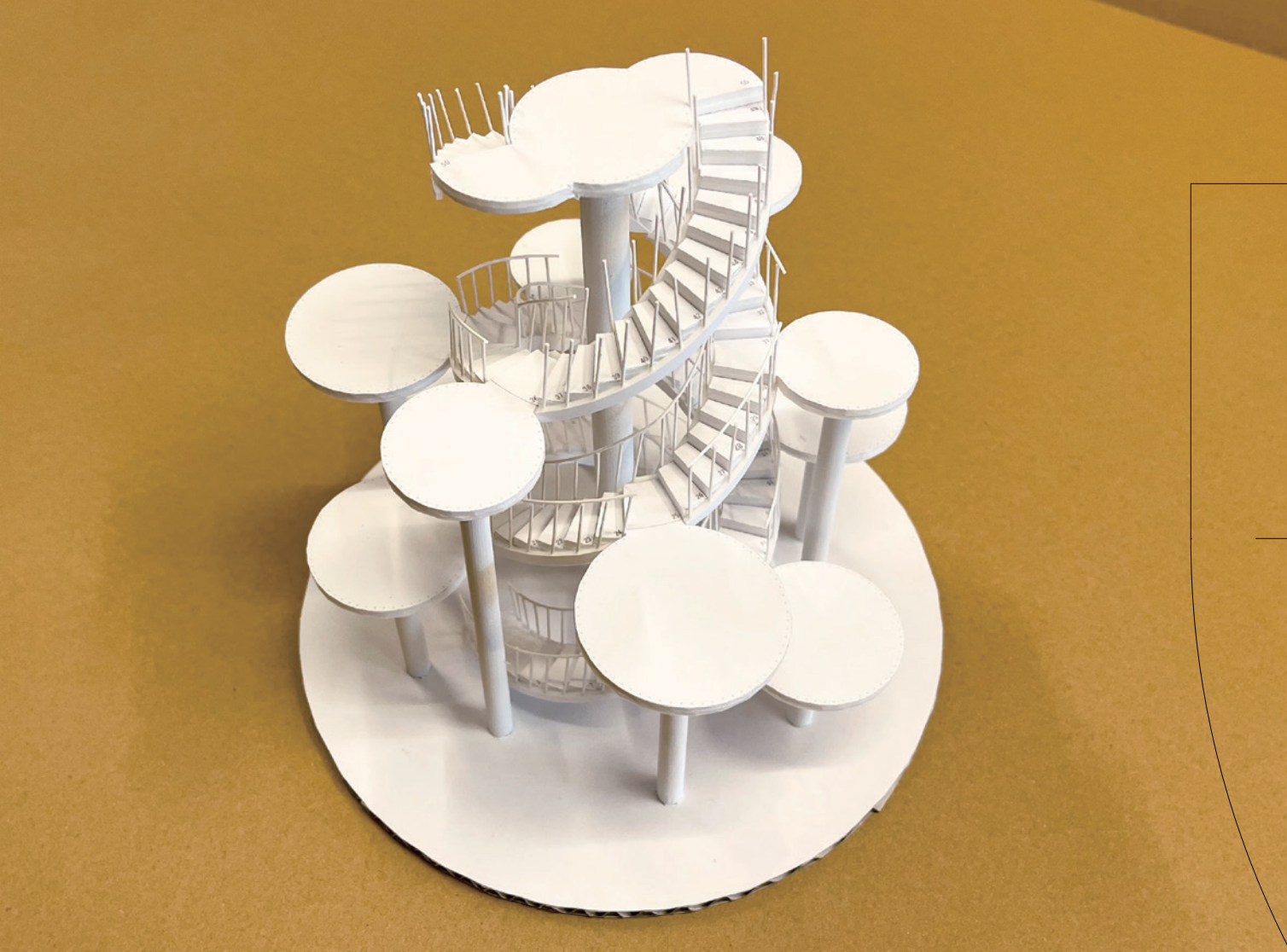
## 建築概要

【建築面積】 約 45 m<sup>2</sup>  
【延床面積】 約 45 m<sup>2</sup>  
【構造】 躯体：RC 造 / 基礎：ベタ基礎

## Epilogue : 「DANCE」

「踊り」。  
旧盆の日に「エイサー」をしながら行われるミチジュネー。  
かつて今も、人々は、祝いの場だけでなく鎮魂の場でも「踊り」を踊っている。  
「踊り」とは「表現」として観ることだけではない。  
時に「踊り」とは生まれや死、喜びや悲しみと直面した自分自身との「対話」である。  
建築の機能の一部として存在する「踊り場」で、  
戦争のあった過去と向き合い、今を眺めて、これから先へ、自分自身と対話する。  
そんな場になれば良い。





南側立面図

東側立面図 1/200

北側立面図 1/200

西側立面図 1/200